



# 「高大接続テスト(仮称)」 一補遺

2012 名古屋大学公開研究会

佐々木隆生  
北星学園大学

# なぜ今「普通教育」か

- 学問の細分化や高度化が進行すればするほど「広く知識を授ける」「知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」(学校教育法)ことが重要となる。 <普通教育と高等教育の接続の1つの側面>



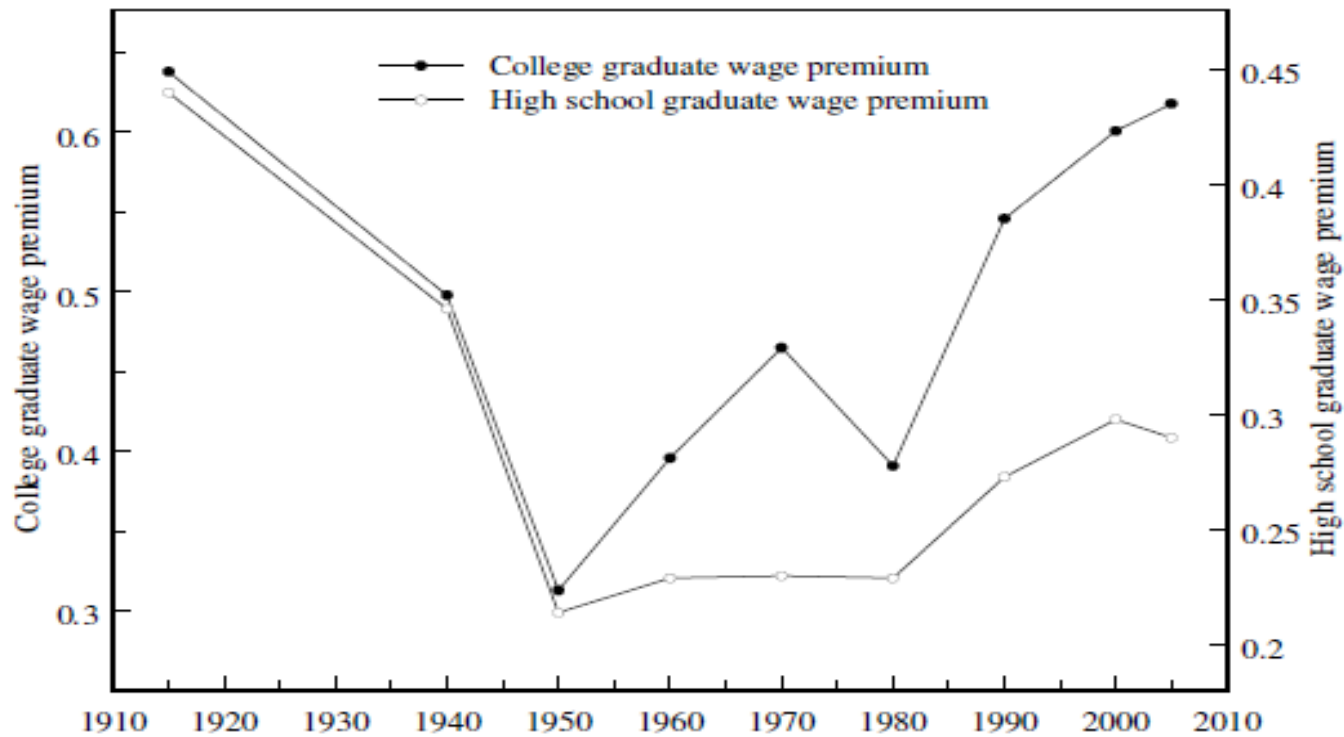
- 高等教育の使命は単に「専門家」を育成することにあるのではない⇒知識人なりジェネラリストの要素を欠く「専門家」の危険(→大学での教養教育再構築＋高校での普通教育充実の必要性).
- 現在の専門家養成は学部＋大学院に移行.

# 考えるべきことー知識基盤社会が提起する 社会問題

- 90年代からアメリカで労働市場と所得分配の「2極化」が進行. 日本, EUでも同じ傾向が生成.
- 原因は, グローバル化よりも技術革新にあるとの実証研究が優位.
- 「やせ衰える」高等教育+「底が抜ける」後期中等教育では, 「人的資本に依存した社会発展」は不可能⇒衰退と亀裂の可能性.

# 知識基盤社会の中での変動－教育の相違に基づく格差の形成：①学歴による賃金格差

Figure 6: College Graduate and High School Graduate Wage Premiums: 1915 to 2005



# 知識基盤社会の中での変動－教育の相違に基づく格差の形成：②雇用増加率の変動

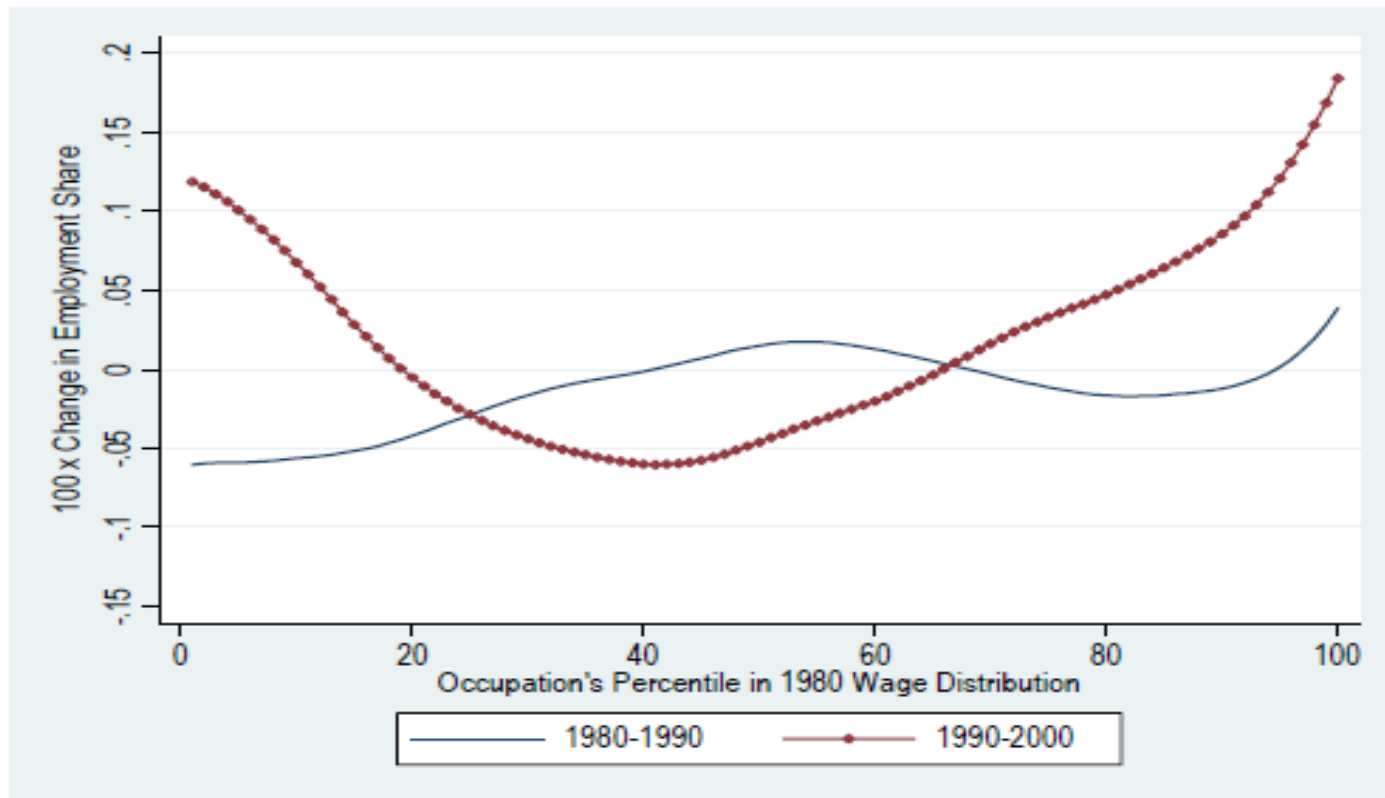


Figure 3. Smoothed Changes in Occupational Employment Shares 1980 - 2000, with occupations ranked by their 1980 Median Wage. Source: Census Integrated Public Use Microsamples, 1980, 1990 and 2000.

# 知識基盤社会の中での変動－教育の相違に基づく格差の形成：③所得分配不均衡の形成

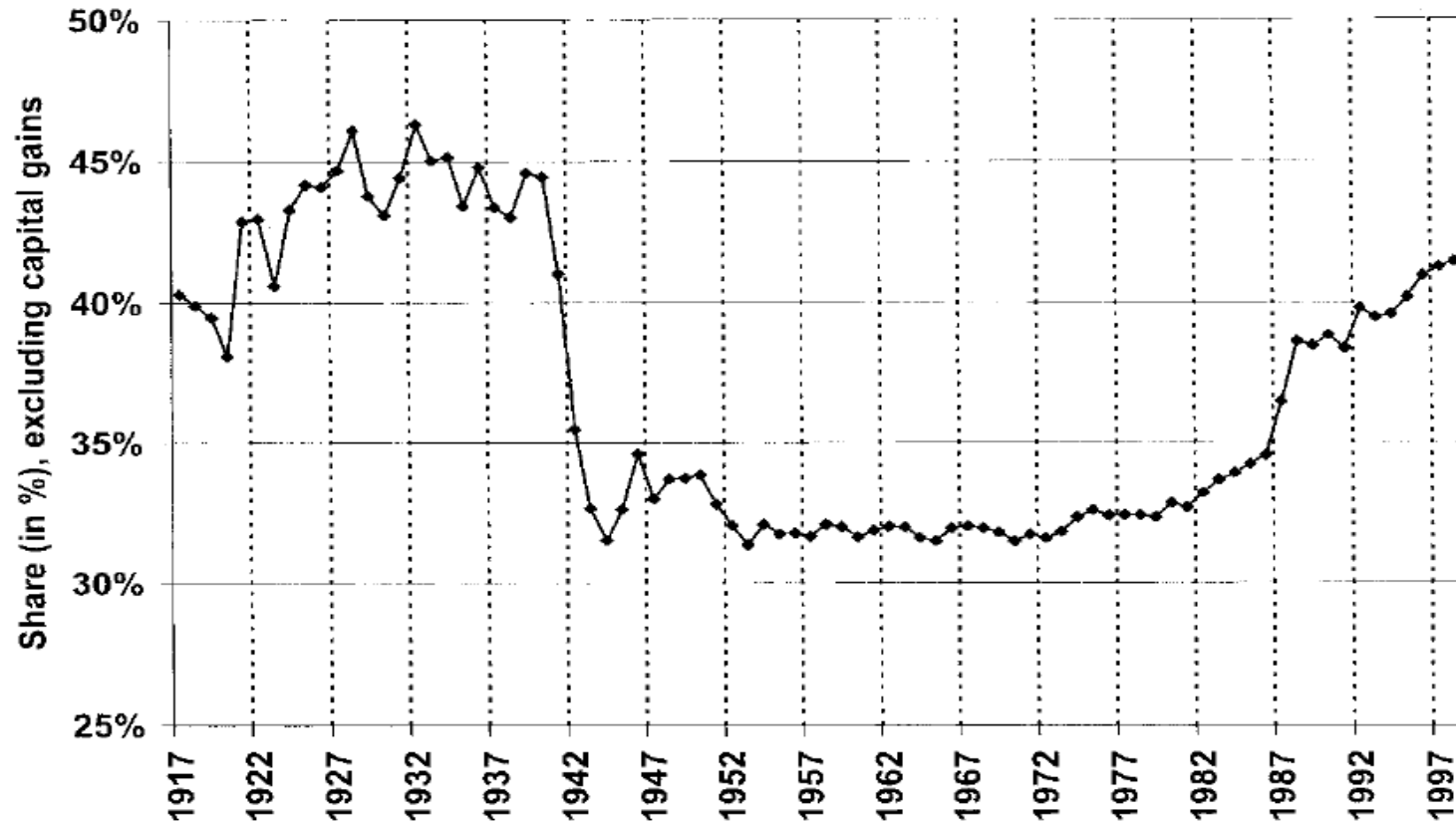


FIGURE I

The Top Decile Income Share, 1917–1998

Source: Table II, column P90–100.

# 知識基盤社会の均衡と安定を求めて

社会発展は学習(human learning)に依存する.

⇒そこから導かれる教育の方向

(1) 国際的知識基盤社会を主導する高等教育と学術研究の発展.

(2) 大学の規模の縮小ではなく質的発展.

(3) 後期中等教育の質的発展.

⇒教育の再構築

# 学校教育を考え直す必要ー高大接続テストの一つの背景

- 現在の学校制度と学校間接続は、義務教育終了をもって社会に出る層が存在した時代を前提に構築されている。
- 知識基盤社会では、K-12(幼稚園から高校卒業まで)を一つの課程として考え、そこから高校卒業や大学進学の意味を考え直す必要がある。